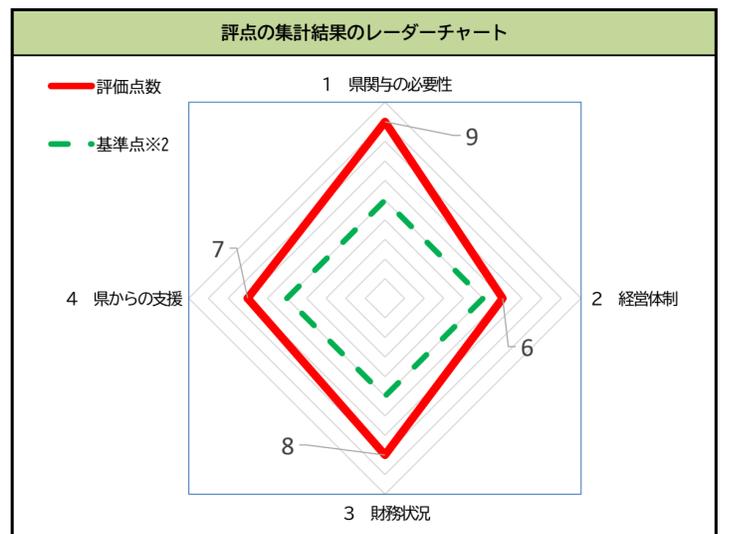


公社等外郭団体の経営状況等の評価に係る評価シート  
【公益法人用】

団体名称	(公財) 千葉交響楽団	所管所属名称	環境生活スポーツ・文化局文化振興課	評価実施年度	令和7年度	※1【説明】は評点をつけた側が理由等を記入し、【コメント】は評点をつけた側の採点結果及び説明を受けて評点をつけていない側が所見を記入しています。	
評価の視点	評価項目	評価配点	調査票該当番号	団体による評価		所管所属による評価	
				評点	説明又はコメント※1	評点	説明又はコメント※1
1 県関与の必要性	① 当初の目的を踏まえつつ現在において必要性を問いつけてもなお、出資又は出捐関係を維持する意義	1点：意義が大きい。 0点：意義が大きいとは言えない。 ▲1点：意義がない又は乏しい。	2~4	1	【コメント】 千葉交響楽団は、県内唯一のプロオーケストラとして、県の文化振興や未就学児童も含め児童・生徒の情操教育に大きな役割を果たしている。国内外を問わず、独立採算制で運営を行っているオーケストラはなく、県の支援は必要不可欠である。国内の地方公共団体が中心となって設立された楽団は17楽団あるが、多くは地方自治体からの支援を受けながら、文化庁、民間の支援を受けて活動している。 新型コロナウイルス感染症の影響で、演奏会の中止、また来客者の制限などにより、改革方針に沿った取り組みが十分行われなかった部分があるが、令和6年度からは自主演奏会を9回開催するなど目標値を上回った項目もある。	1	【説明】 ①~④については、「千葉県文化芸術の振興に関する条例」、「文化芸術推進基本計画」、「千葉県総合計画」において、『県は文化芸術に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する』としている。当楽団は、音楽を通じて県の文化芸術施策を具現化しており重要な役割を担っている。今後も文化行政を推進していくためには欠かせない団体である。 ⑤については、事業費補助を拡充する中で、自主演奏会の回数を増やすなどの取組が行われている。 また、他都道府県が出資して創設した全ての楽団において、自治体からの公的支援を受けている実情に鑑みても、県の一定の財政的支援は必要と考える。
	② 類似団体や民間団体などの他の担い手が存在している場合においてもなお、出資又は出捐関係を維持する意義	1点：意義が大きい又は類似団体等は存在しない。 0点：意義が大きいとは言えない。 ▲1点：意義がない又は乏しい。	2~4				
	③ 県が自ら施策を実施することその他の事業手法と費用対効果を比較して、出資又は出捐関係を維持する意義	1点：意義が大きい。 0点：意義が大きいとは言えない。 ▲1点：意義がない又は乏しい。	2~4				
	④ 将来見通しを踏まえた、現状の県関与の必要かつ妥当な水準・方法	1点：水準・方法の維持や拡大が適当である。 0点：水準・方法の縮小や拡大、見直しを検討中である。 ▲1点：水準・方法の廃止検討や縮小、変更を行っている。	全体				
	⑤ 県が定めた関与方針（策定済みであれば経営健全化方針を含む）に沿った取組	1点：概ね順調に進捗している。 0点：進捗していない部分がある。 ▲1点：主要な部分が進捗していない。	5 5-2				
2 経営体制	① 「理事会等の開催・運営」や「財務諸表等の作成・公表・備置」の法令等に基づいた適正な実施	1点：義務を超えて行っている。 0点：義務の範囲内で行っている。 ▲1点：義務を守れていない部分がある。	7	1	【説明】 ①について、理事会の開催は法令では年3回（予算理事会、決算理事会、4カ月を超えの間隔で2回以上の職務執行報告）を行っている。これとは別に書面による臨時理事会を複数回行っている。 ②について、監査は法令、規則に則って適正に行われている。 ③について、令和6年度から理事に民間人材を起用している。 ④については、演奏会を企画する音楽主幹、ステージマネージャー、また、SNSを活用した広報担当や協賛金や寄附金等を獲得する営業担当職員も必要であるが、職員の高齢化が進む中、事業を継承できる人材の獲得・育成と世代交代が喫緊の大きな課題である。 ⑤については、日本オーケストラ連盟の正会員及び安定した千葉響サウンドづくりを目標としており、自主演奏会の回数を増やすなど努力をしているが、安定した千葉響サウンドづくりのための楽団員の増員が困難な状況にある。	1	【コメント】 法令・規則に則り、適正に理事会、監査等が行われている。また、役員には学識者等の外部人材を起用しており、令和6年度からは役員に民間人材を起用した。 経営計画における目標の達成状況については、法人定期会員の新規獲得に努めるなど、収入は目標を上回ったものの、収支差額は昨年度に引き続き赤字になるなど、目標を達成できていない部分があった。 今後は、楽団員の充実や自主演奏会の増加等の演奏体制の強化と合わせて、後継職員の獲得及び世代交代を進めるなどの事務局体制の拡充により、経営基盤の強化に努める必要がある。
	② 「監査」の法令等に基づいた適正な実施	1点：義務を超えて又は外部的な監査を行っている。 0点：義務の範囲内で行っている。 ▲1点：義務を守れていない部分がある。	7				
	③ 役員（監事・監査役を除く）への民間人材等（民間人材及びプロパー）の起用	1点：経営責任者に民間人材等を起用している。 0点：経営責任者ではないが民間人材等を起用している。 ▲1点：民間人材等は起用していない。	8				
	④ 人員体制の将来見通し	1点：課題は見当たらない。 0点：将来的な課題がある。 ▲1点：5年以内に対応すべき課題がある。	8				
	⑤ 中長期的な経営計画や達成目標となる指標の達成状況	1点：概ね達成できている。 0点：達成できていない部分がある。 ▲1点：策定していない又は主要な部分が未達成である。	9				
3 財務状況	① 債務超過の状況	1点：直近3年間はいずれも債務超過ではない。 0点：直近3年間に債務超過の年度があった。 ▲1点：直近の決算は債務超過である。	10	1	【説明】 ①~⑤について 令和6年度は、自主公演増による出演料や旅費交通費の増額と、千葉県文化会館・習志野文化ホールが休館等で使用できず、それに代わる新たな会場等の確保で賃借料がかさみ、前年度に引き続き3期連続で赤字決算となった。 財政状況は厳しい状況が続いており、将来を見据えた経営健全化を検討する必要がある。演奏会については、多くの県民に楽しんでもらえる魅力ある演奏会の企画をたてていく。また、安定的運営のため、寄附・協賛金の獲得や各種助成金の活用、個人・法人会員の増加、そして民間からの寄附など、県全体で支援していただくくみが必要だと考えている。	1	【コメント】 借入金の返済状況や経営状況を注視していくとともに、引き続き、収入増を図り、財務状況の安定に努めるよう指導していく。
	② 収入全体の状況【公益法人用の評価項目】	1点：事業継続に必要な収入は確保できている。 0点：将来的な課題がある。 ▲1点：5年以内に対応すべき課題がある。	12				
	③ 基本財産の状況【公益法人用の評価項目】※繰越損益相当額がマイナスの場合、対前年度比で改善0点、同額又は悪化▲1点	1点：直近3年間はいずれも減少していない。 0点：直近3年間に減少した年度があった。 ▲1点：直近の決算は減少した。	10				
	④ 経営健全化の必要性	1点：経営健全化方針の策定要件に該当しない。 0点：要件に将来的に該当する可能性がある。 ▲1点：要件に該当する。	5-2				
	⑤ 財務状況の将来見通し※経営健全化方針を策定している団体は、現時点の中長期的な収支予測比で、上回る1点、概ね予測どおり0点、下回る▲1点	1点：課題は見当たらない。 0点：将来的な課題がある。 ▲1点：5年以内に対応すべき課題がある。	全体				
4 県からの支援	① 県からの人的な支援の状況	1点：人的な支援を受けていない。 0点：人的な支援を受けている。 ▲1点：県が給与等を負担する人的な支援を受けている。	4、8	0	【説明】 ①については、本楽団は、県事業である音楽鑑賞教室、県民芸術劇場公演等を実施するなど、県の文化芸術振興施策を具現化する役割も担っており、県との連絡調整役として、県からの退職者を要望している。 ④について、財団独自では自立型運営が困難なことから、県から運営費補助を受けており、令和5年度からは自主演奏会に対する事業補助金も新たに受けている。 楽団としては、千葉県の音楽文化向上のための活動を行うために、財政基盤の安定化の努力はするが、今後も県の支援は必要である。	1	【コメント】 ①について、当楽団からの要望に基づき、県では退職者を紹介している。 ④について、当楽団は本県の音楽芸術の普及向上を図り本県における文化振興の推進に大きく寄与している団体であり、経営基盤の確立のための運営費と自主演奏会の充実のための演奏会事業費の一部を県が支援している。 今後は経営基盤の安定化に向け、県と連携した経営改善に努めるよう、県の支援の在り方を検討していく必要がある。
	② 経営難を理由とした県からの借入金残高の状況	1点：0円又は対前年度決算比で減少が10%超である。 0点：対前年度決算比で増減が10%以内である。 ▲1点：対前年度決算比で増加が10%超である。	11				
	③ 経営難を理由とした県による損失補償等の状況	1点：0円又は対前年度決算比で減少が10%超である。 0点：対前年度決算比で増減が10%以内である。 ▲1点：対前年度決算比で増加が10%超である。	11				
	④ 運営費補助や赤字補填等を目的とした県からの財政的支援の状況	1点：直近5年間には受けていない。 0点：直近5年間で受けた年度があった。 ▲1点：直近の決算で受けていた。	12				
	⑤ 経営難を理由とした県の追加出資又は出捐の状況	1点：直近5年間には受けていない。 0点：直近5年間で受けた年度があった。 ▲1点：直近の決算で受けていた。	12				

評点の集計結果等			
評価の視点	基準点※2	評点	評価点数
	①	②	①+②
1 県関与の必要性	5	4	9
2 経営体制	5	1	6
3 財務状況	5	3	8
4 県からの支援	5	2	7

※2「基準点」は、超えていなければ、その評価の視点は改善が望まれる状態を意味する点数で、団体の強み、弱みを把握して改善を図る際に、参考にしてもらうことを期待しています。



総務課による総括コメント  
一部を除き経営状況等について問題がある事項は、特段見受けられない。関与方針に基づき団体と県で連携して経営改善を進め、引き続き、団体の設立目的や県が関与している意義に沿った事業展開を図っていただきたい。  
なお、運営費補助を県から受けていることについては、団体の特殊性を踏まえると、現時点ではやむを得ないものと考えられる。  
また、課題である演奏体制の強化や事務局体制の拡充、財務状況の安定化については、団体と県で連携して必要な見直しの検討を進めていただきたい。